

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2022.10.21

第78号



人権・同和教育だより 丹波篠山

発行

丹波篠山市
人権・同和教育研究協議会
TEL・FAX 079-593-1260
http://t-s-doukyou-hr.jp
〒669-2734 丹波篠山市宮田240
丹波篠山市役所 西紀支所3F
年3回発行 6・10・2月

2022年12月11日(日) 13:00～16:00

第20回 人権フェスタ in 丹波篠山

会場：丹波篠山市立田園交響ホール

開会行事、あいさつポスター・人権作文受賞者表彰及び作文発表等 [13:00～]



第23回研究大会の様子

第24回 丹波篠山市人権・同和教育研究大会

主催：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会

テーマ：人権意識の豊かな人づくり・世間づくり・まちづくり

大会趣旨

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実から深く学ぶ」ことを基本理念としてきました。今年は差別からの解放をめざした全国水平社が創立されて100周年にあたります。しかし、今なお、差別事象が起きています。さらに、急激な社会変化により人権問題は複雑化、多様化しています。今大会は、「人権意識の豊かな人づくり・世間づくり・まちづくり」のテーマのもと、あらゆる差別解消のために、今私たちにできることを市民の皆さんと一緒に考えたいと思います。

基調講演 14:00～15:50

演題 『取り組みの立脚点は差別の現実 –問われているその基本認識–』

講師 奥田 均さん (近畿大学名誉教授)

※今年度も、新型コロナ感染拡大防止のため、分科会は開催しません。

※新型コロナ感染拡大状況により、変更・中止になる場合があります。その場合は市同教ホームページでもお知らせいたします。12月9日(金)までは、電話で問い合わせいただいても結構です。

「人権・同和教育セミナー2022」より

今年度も、人権・同和学习を深める場として、そして差別をなくす実践力をつけるために1年間にわたる5回の連続講座を企画しました。

第1回は新型コロナ感染拡大のため中止としました。第2回目と第3回目の様子と参加された方々の感想を紹介します。

第2回 「はじめてみよう！これからの部落問題学習」 ～部落差別解消推進法をどう活かすか～

9月3日(土)開催



講師 北川 真児さん
(部落解放同盟兵庫県連合会 事務長)

インターネットによる差別事件の悪質化と、社会の急速な変動ともなう差別の変化について語っていただきました。また、差別をなくすために、常に情報のアップデート(更新)をする大切さを学びました。そして差別問題を学ぶことは、多様な人たちとの関係を深め、自分の人生を高めると教わりました。

【参加者の声】

- *最新の情報等を伝えていただいたり、専門的な内容(現代的レイシズム＝論理的いやがらせなど)を教えていただき、非常に勉強になりました。
- *誰もが「当事者」になる→このことはすべての人権課題に共通します。この事をいつも心にもって人権課題の取り組みに生かしていきたいと思いました。
- *「無関心でいることはできても、無関係ではいられない！」だから正しく知り、能動的に学びたいと思います。そして常に情報をアップデートしていくことが大切だと感じました。

第3回 「マイノリティ女性の生きづらさー差別の交差性を考える」



講師 瀬戸 徐 映里奈さん 10月1日(土)開催
(近畿大学人権問題研究所 特任講師)

マイノリティ女性とは、被差別部落、他国籍、障がい者、セクシャルマイノリティなど複合的にもっている女性を言います。そのため、一人が抱えるのは一つの差別ではないという差別の複合性(交差性)により、生きづらさを持つ人が多い現状を学びました。また、生きづらさがどういう事なのかを理解することが大切だと教わりました。

【参加者の声】

- *「社会が複雑化している」ということは何となく感じていましたが、差別も複雑化、複合化していると感じました。自分にできることは何か？という状況が幸せな状況か？を考えることをこれからしたいと思います。
- *差別問題を考える際、一つの差別に焦点を当てて考えてしまいがちでしたが、様々な差別が交差するという新たな視点を獲得することができました。差別が重なれば重なるほど生きづらさが増すという言葉が頭に残りました。
- *従来の部落差別問題中心の講座とは少し異なる視点からの話でよかったです。

あなたも丹波篠山市人権・同和教育研究大会に参加してみませんか？

※どなたでも参加できます。手話通訳・要約筆記もあります。コロナ感染拡大防止のため託児はいたしません。

暮らしの中から

「墓じまい」に想う

5月、高台にあった実家の墓は大きなクレーンでつり下ろされました。父、祖父母の墓と、曾祖父、曾祖母の墓三基が。私が生まれる前から、百年以上も亡くなった先祖の遺骨を守り続けてくれた墓。これからはずっとそこにあるのだろう、あることが当たり前だと何も考えずに生きてきました。

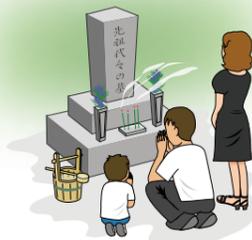
しかし1月、96歳で母が亡くなると状況が変わったのです。3人の子どもはそれぞれ結婚して、実家は母の代で終わりを迎えました。それに伴って墓と仏壇をどうするか考えなければならなくなりました。私たち子どもには墓や仏壇の維持管理は難しい状況です。相談を重ね、最終的に「墓じまい」という選択をしました。

4月、親族が見守る中で「魂抜き」をしていただきました。住職の読経の後、墓の中に入っている遺骨を取り出し、お寺で永代供養をお願いすることになりました。後日、仏壇もきれいに片付けられました。お盆を過ぎてから墓じまいをして更地になった場所に行ってみると、今年も墓参りをするはずだった場所は、本当に何もなくなり涼しい風が吹き抜けていました。

その場に立って考えました。墓じまいをした今、私には何もかもなくなってしまったのでしょうか。手を合わせて亡くなった人たちに話しかけていたのは、墓や仏壇があったからなのでしょう。いいえ、手を合わせている対象は命の絆で結ばれている人たちです。父と母はいつも「命を大切にすること」を願い、私を見守っていてくれているように思います。自分の命も人の命も。

今、日本の社会は命を大切にしているのでしょうか。年間、多くの若者が自分の命を絶っていたり、コロナ禍で、医療の手の届かないところで亡くなっていたりしています。また、せっかく生まれた尊い命を、虐待により摘み取ってしまう事件も後を絶ちません。世界に目を向けると、多くの人々が戦争のない世界を祈念しているにもかかわらず、ロシアはウクライナに侵攻し、罪のない多くの人々が犠牲になっています。

今私たちが生きているこの世界は「命」に優しい世界ではないのかもしれませんが。だからこそ平和を願い、弱い立場の人々に寄り添って生きることを忘れないでいたいと思います。父と母から「命を継ぐ」者の一人として。
(西田 こず枝)



みんなの人権を考える映画会 『MINAMATA -ミナマター-』より

「MINAMATA」は、著名なカメラマンであるユージン・スミスと妻のアイリーンが水俣病の被害に気づき、水俣で3年間取材をした事実に基づいた映画です。今なお水俣病に苦しんでおられる人々が多数存在します。また世界でも同じような環境被害に苦しむ人々がいる事実も知り、「水俣はまだ終わっていない」という事を強く感じる映画でした。

参加者の声

- 水俣はまだ終わっていない・そして、関心を持つことの大切さを感じた時間でした。
- 「苦海浄土」から知った水俣の様子。また違う面から知ることができました。こうやって幅広く、日頃見過ごしている弱者の思いが伝わるドキュメントなど共有したいです。
- 水俣のことを全く知らなかったことに気づきました。今なお続いている問題であること、世界でも同様のことがあることにも気づくことができました。これから正しく知りながら何ができるのか考えていきます。
- 一枚の写真がうたえる力の凄さを感じました。

専門部会研修会・セミナーなど



*第4回人権・同和教育セミナー

11月5日(土)14:00~16:00
内容:「差別と社会—差別が生じるメカニズム」
講師:内田 龍史 さん(関西大学教授)
場所:丹南健康福祉センター 研修室

*男女共生部会研修会

11月12日(土)13:30~15:00
内容:「男女共生とは? ~誰もが安心して暮らせる社会をめざして~」
講師:井山 里美 さん
(NPO法人 女性と子どもエンパワメント関西事務局長)
場所:丹南健康福祉センター 研修室

*地域部会研修会

11月24日(木)19:30~21:00
内容:「丹波篠山市の戦前から戦後にかけての在日の歩みを知る」
講師:丹波篠山市在日コリアン足跡調査研究・銘板設置の会
場所:丹波篠山市民センター 多目的ホール

*学校部会研修会

11月29日(火)15:00~16:30
内容:「学び続けて新たに気づく ~人権学習の基本~」
講師:塚本 一男 さん(元丹波篠山市小学校教員)
場所:丹南健康福祉センター 研修室

*障がい者部会啓発チラシ設置・配布

12月上旬「障害者週間12月3日~9日」
内容:障害者週間啓発チラシの設置・配布
設置場所:市内公共施設および事業所など
その他:市内各3高等学校の全生徒に配布

*PTA部会研修会

1月22日(日)13:30~15:00
内容:「ウイズコロナ時代の保護者のあり方」
講師:原 清治 さん(佛教大学副学長)
場所:丹波篠山市民センター 催事場1・2

*第5回人権・同和教育セミナー

1月29日(日)14:00~16:00
内容:「部落差別の解消に向けて」
~人権教育・啓発の課題をふまえて~
講師:棚田 洋平 さん(部落解放・人権研究所事務局長)
場所:丹南健康福祉センター 研修室

*企業部会研修会

3月上旬予定
内容:「古文書に見る丹波篠山の人権の歴史」
講師:今井 進 さん(市同教啓発推進委員)
場所:丹波篠山市民センター 多目的ホール

*高齢者部会研修会

市内各老人クラブ単位で実施します。

※上記の研修会等は新型コロナ感染拡大状況により中止や変更する場合があります。

家族だからこそ感謝を

我が家は、ボクと妻、長男、ボクの父と母の5人家族で、食事も風呂も洗濯も、すべて共用の三世帯同居です。国の「高齢社会白書」を見てみると、我が家のような65歳以上の高齢者がいる三世帯同居世帯の割合は、2019年度時点で9.4%と、実に10軒のうち、1軒に満たないという状況なのです。

ありがたいことに、多少の意見や考えのずれ違いはあるものの、今のところ関係は良好……だと思えます。で、改めて、家族がどう関わり合っているのかを見つめてみると、それぞれが感謝しあっていること、お互いに頼っていることが分かりました。「ありがとう」と、ストレートに言わないまでも、「悪いけどしといてくれる」とか「たいへんやったね」とか、それなりの声掛けができています。

例えば、ボクの妻と父の関係でいうと、父は、ゴミ袋の名前書きなどの、本当にこまごましたことを妻に頼んでいて、父はその都度、一声掛けています。長男と母(孫と祖母)の関係も興味深く、2人で遊んでいるときは、長男は偉そうに「これして」「あれして」と母(祖母)をこき使っているのですが、食事のときなどは、優先して母(祖母)に配膳するなど、言葉に出さないけど気遣いをしています。

妻と母の関係も絶妙です。調理の大半は妻がするのですが、一部の料理は母に委ねています。また、出不精な母を誘って、妻と一緒に買い物に行くこともあります。そのことを、夕食時に妻や母が披露するので、感謝の気持ちを家族で共有できているような感じになるのです。

そうそう、ボクと妻の関係がまだでしたね。一番、感謝を口にしなければならぬのはボクだったりします。妻は家に居て、特に昼間は、間もなく後期高齢を迎えようとする父や母と生活する時間が長く、いろいろな部分でサポートしてくれています。今日は、紙面越しに言います。いつもありがとう。
(安井 聡博)



フィールドワーク~丹波篠山市在日コリアンの足跡を訪ねて~より

丹波篠山市の戦前から戦後にかけての在日コリアンの史跡を辿りました。硅石鉱山跡を中心に、当時の在日コリアンと日本人の交流を学びました。



参加者の声

- 今回の話は全く知らないことばかりでした。学校でも児童に知らせていくことが大切ではないかと感じました。
- 鉱山があったことも全然知らなかったので、大変勉強になりました。
- 多くの発見があり、知的好奇心を満たされました。
- 畑鉱床群にも行ってみたいと思います。

住民会費・企業会費のご納入ありがとうございました。

自治会をはじめ、市民や企業の皆様のご尽力により、9月末現在 3,288,980 円の会費をお納めいただいております。この貴重な会費は、私たち丹波篠山市で生活するすべての人たちが、互いの人権を尊敬し、あたたかく優しい気持ちで暮らしていくための啓発・学習活動に使わせていただいております。

今後とも丹波篠山市同教事業にご理解、ご支援いただきますようお願いいたします。

編集後記

ファッションの業界ではユニセックスという言葉がよく使われます。ユニセックスとは男女区別がないという意味です。つまり女性用のもの、男性用のものという分け方はありません。

このユニセックスの商品を展開するファッションブランドは、ここ近年、たいへん増えました。また、老舗のブランドも多くのユニセックス商品を展開しています。最近では制服にも性差を感じさせない制服(ジェンダーレス制服)を採用する学校も増えています。

こうした多様性により、ファッションの選択肢も増え、より自分らしい生き方につながるよう期待しています。